

## 学校だより「は つ や ま」

○は ⑤ っ ⑩ はつらつとした子  
(きらきら)

令和4年7月7日 第20号

○や ④ やさしい子  
(ほかほか)

壱岐市立初山小学校

○ま ⑥ まなぶ子  
(ぐんぐん)

文責：校長 野間 恭介

### 今日は『七夕』、夜空を眺めてみるのもいいですね！

今日は7月7日、「七夕の日」です。七夕は、織姫と彦星が1年に1度だけ、天の川で会える日とされています。

昔あるところに、神様の娘の織姫と、若者の彦星がいました。織姫は機織りの仕事をしていて働き者。彦星は牛の世話をしているしっかり者でした。やがて二人は結婚しました。すると、今まで働き者だった二人は急に遊んで暮らすようになり、全く働かなくなってしまいました。怒った神様は、二人の間に天の川を作って離してしまいました。悲しみにくれた二人は泣き続けました。それを見た神様は、前のようにまじめに働いたら、1年に1度だけ、二人を会わせてくれると約束しました。それから二人は心を入れ替えて一生懸命に働くようになったのです。そして、二人は1年に1度だけ天の川を渡って会うことが許されるようになり、その日が「七夕」とされるようになりました。(諸説言い伝えはあります。)

### 「どうして、笹に飾り付けるのでしょうか？」

七夕の飾り付けをする笹竹には、風に揺れるサラサラという葉の音で悪いものを祓ってくれる厄除けの力があると信じられていたようです。

神様が降りてこられるように目印として、また天に向かってまっすぐ伸びる力強さに子供たちが健やかに成長できるように祈りを込め、笹竹が用いられるようになったと考えられています。(諸説あります。)

### 「なぜ、短冊に願い事を書くのでしょうか？」

短冊に願い事を書くようになったのは、江戸時代以降とされています。本来貴族の宮中行事であった七夕が国の季節行事「五節句」に定められ、一般的に広まったようです。

中国では、裁縫が上手な織姫にあやかり、5色の糸をお供えする習慣がありましたが、江戸時代以降、子供たちが習字の上達を短冊に書き笹に飾り付ける習慣に変化し、いろいろな願い事を短冊に書く風習が普及したという説があるようです。(諸説あります。)

初山小学校の子供たちも、短冊に願い事を書いて、笹竹に飾り付けました。

それぞれ、自分のことや家族のことなど、みんな一生懸命に考えた素敵な願い事を書いていました。子供たちがどのような願い事を書いたのか、ぜひ、ご家庭で尋ねられてみてください。私はきっと、みんなの願い事は必ず叶うと信じています。

今日は、夜空を眺めてみると、もしかしたら織姫や彦星の星の「夏の大三角」が見られるかもしれませんね。

時間がありましたら、ご家族で眺めてみられるのもいいですね。

今回、願い事を書いた短冊を飾り付けた笹竹は、初山地区まちづくり協議会の会長の「後藤義次 様」が準備してくださった笹竹です。

立派な笹竹を子供たちのために準備していただき、本当にありがとうございました。おかげで素敵な飾り付けができました。

